

「やませ」が来るところ（東北地方）での稲作

教員になって数年たったとき、他県の何かの講演会で聞いた話でとても納得した。

やませが来るところでの稲作は、次の３点が大切である。

- ・土作り
- ・苗作り
- ・根作り

基肥（田植え前の肥料）は少なくし、後肥を多くするという古くからの方法がある。

（当時の行政の指導は逆である。それは、うまい米を作るため）

しかし、寒い場所での稲作では、基肥を多くすると根が甘えて、下へ伸びない。基肥を少なくして、根を活性化させる。味を追求しすぎて耐寒を考えなくなってしまった。耐寒あつての味ではないか・・・。

さて、この話、今の教育と類似していないだろうか。

子ども表面の学力（米の味）を伸ばすため、失敗させないように手取り足取りの教育を行う（基肥を多くする）。

これは子どもが本来持つ自ら伸びようとする力をつけることになっているのだろうか。

ちょっとくらいほっておいて（基肥を少なく）、自ら伸びていく（根を活性化させる）ようにした方がいいだろう。

今日の教育や学校では、子どもへのきめ細かな指導が行われている。

この中で、子どもに考えさせ、任せることをさらに考えてみる必要があるかもしれない。

時代の要請もあり、様々な取り組みをバランスよく、良質な教育を行っていく必要があるのだろう。じっくり考えてみたい。